

【失語症の源流を訪ねて一言語聴覚士のカルテから】

(2014年4月30日発行 第1刷)

正誤表

このたびは、「失語症の源流を訪ねて一言語聴覚士のカルテから」をお買い求めいただきましてありがとうございます。(2014年4月30日発行第1版第1刷)

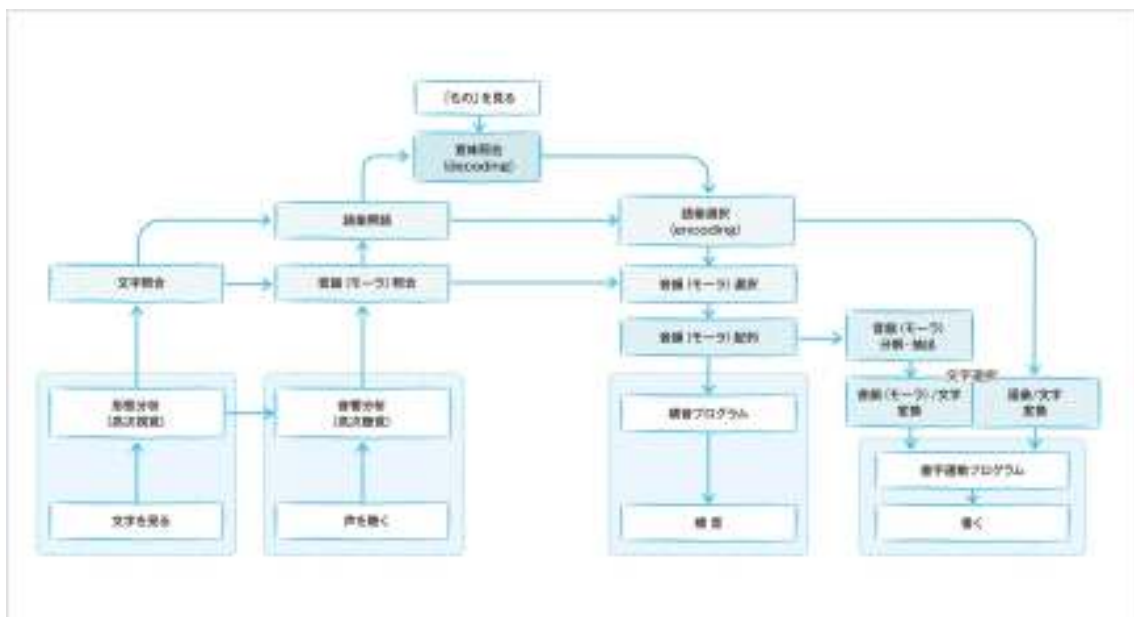
下記のような誤りが出ています。訂正して、お詫び申し上げます。

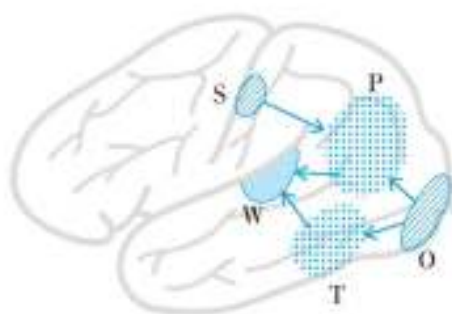
(2014年6月12日)

ページ、行	誤	正
14 頁右(2行)	因みに、当時脳室は細胞(セル、cell)と考えられていたため、脳室説は別名 cell theory とも呼ばれます。直訳すると細胞説ですが、生物学においてやはり細胞説という用語があり、まったく別の意味で用いられていますので、ここではセル説とします。	<u>因みに、脳室理論は別名 cell theory とも呼ばれます。cell(セル)とは「小部屋」という意味です。現在、医学・生物学の分野では、cell は細胞という意味で用いられていますので、ここではあえて日本語を当てずにセル理論とします。</u>
19 頁年表(下から 11 行)	ウィリス <u>「脳室理論」を支持</u>	下線部 削除
24 頁右：図(シュプルツハイムによる脳の地図)	人間のさまざまの	人間のさまざま <u>な</u>
31 右(7行)	<u>見</u> につまされる	<u>身</u> につまされる
41 頁右(下から 10 行)	1886 年には仲間と共に	<u>1878 年</u> には仲間と共に
49 頁右(1行)	ウェルニッケ・リヒトハイム	リヒトハイム・ウェルニッケ
59 頁左(下から 6 行)	「何」であるが	「何」である <u>かが</u>

74~75 頁 図 →の位置を変更 (正しい図を掲載)	<u>音韻 (モーラ) 選択 (誤)</u> から 語彙/文字 変換	<u>語彙選択 (encoding)</u> から 語彙/文字 変換
90 頁左 : 3 行目	運 <u>度</u>	運 <u>動</u>
107 頁左 ○歴史的背景(2行)	聴 → ゴチ	聴
118 頁右 : IWATA(1984) による日本語の読みの二 重経路 (正しい図を掲載)	IWATA(1984)による日本語の 読みの二重経路	OからTへの矢印追加
125 頁右(14行)	Sooner is better	The sooner, the better (ゴチ にしない)
130~133 頁 : 図 (SLTA) 縦軸	正答率	正答率(<u>%)</u>

74 頁 正図





- O : 後頭葉
- P : 角回
- T : 側頭葉後下部
- S : 体性感覚野
- W : ウェルニッケ領域